

栄光

説教・「愛と平和の神」岸牧師…1
 特集・誰かを想うとき…2
 高知だより…5
 説教・「食卓の主」狩野伝道師…6
 伝道師の書き込み…7
 牧師の書斎から…7
 長老のファイル…8

説教

『愛と平和の神』

民数記6章22節～27節
 コリントの信徒への手紙13章11節～13節

岸 俊彦

この手紙は、当時の手紙の形式に従って挨拶で終わります。ただし形式的な挨拶というより、「兄弟たち」と呼びかけて、パウロは最後に一番伝えたかったことを再確認します。

挨拶の中で「喜ばなさい」とパウロは語ります。どうしたら私たちは、喜んで毎日暮らすことができるのでしょうか。

世の中は喜ばないことばかりです。「死が命を飲み込んで」います。しかし、「言（＝キリスト）の内に命があった。命は人間を照らす光であった。光は暗闇の中で輝いて」います（ヨハネ1：4、5）。闇の中で暮らす私たちは土の器にすぎませんが、深い闇が私たちを支配しているわけではありません。光は闇の中で輝いています。私た

「シャローム（平安、平和）」と挨拶を交わすことから始めるのです。ささやかな挨拶にキリストの恵みを込めるのです。

パウロと対立したコリントの兄弟姉妹は、もともと主が集め、救ってくださった兄弟姉妹です。神の栄光のために、キリストの福音の前進のために共に喜んで働く者です。私たちが目指しているのは気持ちや感情の一致ではありません。信仰による一致です。お互いの壁を砕いて、一致へと導いてくださるのは主イエス・キリストです。主を信じることです。そうすれば、愛と平和の神が、私たちを一つにしてください。

挨拶には「聖なる口づけ」が伴います。「聖なる口づけ」は日常の挨拶ではありません。礼拝の中で行われるものです。ユダヤ人もギリシヤ人も、奴隷も自由な身分の者も、口づけをもって互いに挨拶を交わすことは、世の中ではあり得ないことでした。しかし、礼拝では実現していました。聖なる口づけをもって挨拶することは、主にある和解と一致の徴（しるし）です。愛と平和の神の御前でこそ、思いを

一つにし、平和を保ち、キリストの体である教会に組み合わせられて一つとなることができます。

この手紙の最後には挨拶のあとに祝福がきます。この言葉は主日礼拝の祝福となりました。礼拝に招かれた私たちは、主の裁きの前に立たされます。御言葉に照らして悔い改めを迫られます。礼拝は、終わりの日の裁きの先取りです。それとともに礼拝の最後で私たちは祝福されます。ただキリストの恵みによって、どのような時代、どのような世の中、どのような自分でありましても、私たちは祝福されたものであることを明らかにします。

闇が広く深いこの世の中でも、また、それぞれの内に自分でも計り知れないほどの闇を抱えていても、決してこの人生、呪われていてるわけではありません。祝福されている人生であることを、礼拝は最後に私たちに示します。

この礼拝に招き、生きて働いてくださる主は、ただキリストの恵みによって私たちを祝福してください。祝福された人生を共に大いに喜び感謝しましょう。

誰かを 想うとき

「伝道礼拝」「クリスマス礼拝」など

これからの季節は

教会では行事が続きます。

いつも通りには開催できないかも知れませんが

そんな時でも「あの人を誘ってみたい」と

誰かの顔が浮かぶかも知れませぬ。

昔からの友人、お世話になった方…

誰かを想うとき、私たちは温かい気持ちになります。



Wちゃんとの出会い

大久保恭子

2月の半ばから現在に至るまでバス・電車などを利用することなく、基本的にずっとステイホームです。今回気づいたことですが、今までも自粛生活のような日々でしたので、家の中でも充分穏やかに過ごしていました。

岸先生より『栄光』のテーマを頂いた折、すぐに浮かんだのは祖母です。あの笑顔を想うとあたたかな気持ちになりますし、暮らしの中で「祖母だったらどう思うか」などいつも考えているからです。でも今の私の一番の幸せは、昨年11月から家庭教師をしているWちゃんとの時間です。小学4年生。数多くの子ともたちと会ってききましたが、このような気持ちになったのは初めてです。先生と生徒、というよりも歳の離れた友達、彼女にとってもひかれていきます。その差40歳。でもそんなことは関係なく、時を重ねていく度に大切な存

在になっていきました。休校となった2月からは教える日も増えました。暗いニュースばかりの時期、Wちゃんと過ごす時間が何より楽しみでした。アニメやゲーム、歌など今まで知ることのなかったことにも触れ、世界が広がりました。頑なに拒んでいたスマートフォンもWちゃんの一言で替え、一気にデジタル化の日々になりました。Wちゃんが好きだということに私も興味を持ち、共有したいという思いが日々を豊かにしてくれました。主人は「相棒だね」と言い、いつのまにか大切に考えてくれていたことが、また大きな喜びとなりました。

ランニングや俳句、料理という一人の楽しみで満たされていますが、相棒のいる張り合いのある生活に変わったと思います。人と人との縁は本当に不思議です。どんな時も人を幸せにするのは人だと改めて思います。こんな出会いを与えられ、感謝です。祖母もきつと「恭ちゃんは幸せね」と言っていると思います。

祖母との絆

重藤栄子

バツハの『マタイ受難曲』を聴きに行った。キリストの痛みと神への信頼が浮き彫りにされた。翌日ぎっくり腰になり、痛みのため身動きがとれない中、母方の祖母のことを想った。

幼い頃から草花や生き物を育てることが大好きだった祖母は4人の子を産んだが、娘2人を幼い頃天に送り、大切な長男を戦争に送り、南の島の砂が帰って来るという残酷な経験をした。1人娘となった母の家族と同居。孫は姉と私、最愛の夫も天に召された。

私の誕生日は終戦記念日に近いので、平和の日と喜んでくれた。庭には復活のゆりの花が咲いた。家族を次々に天に送った祖母は、私に霊の世界、地球を大きく超える神の世界を教えてくれた。反面独り言で、心の痛みを晴らしているようだった。聖書には「つぶやくなかれ」とあるのに…。

私が音大受験に励んでいた高校生の時は、転勤中の両親に代わり、世話してくれた。ちょうど今の私の年令だった。祖母は生涯短歌を学んでいて、私と芸術論等で盛り上がり、楽しかった。

80才を過ぎて右手を骨折し、治療も難航する中、泣き言も云わず、左手で何でもやってのけた。

90代に入り、大腿骨折で入院し、遺体で帰宅した。晩年は、ありがとうが増え、「御心のままに」が口癖だった。

天に召されたのは、平成1年1月11日午前1時11分間違いない。なぜなら、祖母を想ってふと目上げると、デジタル時計が11:11等、決まってゾロ目を指すのだ。「私はここに居るよ」と、神様の国は遠くでなく、ここにいる。心の中にあると、教えてくれている。

人間には心の痛みも身体の痛みも与えられるが、必ず癒しが与えられる、と気づいた。

ぎっくり腰から抜けだし、少しずつ日常を取り戻した今、真の感謝が湧いてきた。

かけがえなき友人

佐々木啓子

原稿の依頼を受けた時、今までの80余年の人生で本当に多くの友人と出会えたことに感謝すると共に、いろいろな思い出が懐かしく蘇ってきました。

何と言っても世紀の節目に教会の枝に加えていただき、大勢の兄弟姉妹を与えていただいたことは何物にも代えがたい賜物です。日曜日の朝の挨拶から始まる楽しい語らいのおかげで、その週を元気に過ごすことができます。

昭和33年に高校を卒業しました。まだ貧しい、物のない時代でした。元は男子校だったことから女性が少なかったこともあり、仲良く協力しあって過ごしました。卒業して63年、皆元気でお付き合いが続いています。コロナ禍になる前には、2ヶ月に1度は会っていました。最近スマホで近況を確かめます。「元氣? コロナは大丈夫?」で始まり、「元氣で

いようね」が合言葉です。大学時代の友人も元氣で、言えば、自分たちが80歳を過ぎていることを忘れ、学生時代に戻ります。

主人の従弟関係、大学時代や会社時代の友人の奥様方ともお付き合いしています。年齢も話題も違います。有意義な語りです。

しかし、よいことばかりではありません。20年以上も前のことですが、非常に信頼し合い何でも話せる仲だった友と決別しました。未だに忘れることが出来ず、心の奥深くに宿っています。このことは教会に来るようになった一つの要因です。

もう一つの心の支えはご近所の奥様方との交流です。具合が悪くなれば寄りそい、困った時は何時でも来てくれますし、教会バザーに行くのを楽しみにしています。そんな中であって、私は得意な料理を作ると、いくつかのバックに詰めて、マスクをし、エプロン姿で近所の友に配って回ります。そんな友達顔がいつも浮かびます。

一日でも早いコロナの収束を祈りつつ。

存在、喪失感

樋口史子

朝顔の花が、夏が来たことを喜んでい季節となりました。

時は淡々と、いつも通り季節を繰り返しています。去年、一ヶ月の間に二人の身内を天国へ見送りました。それぞれの一生を振り返り思い返し、存在感の重みをひしひしと感しています。人間の一生は時の流れの中でごく短い期間ではありますが、不思議な程、命は残された者に、引き継ぐ者に少しずつ各々からいろいろな形で受け継がれ続けていると実感します。神様が、この世での命を私たち一人一人に預けられ、役目が全うされた時に引き上げられるのだろうと思われま。それ故、一筋の希望の光を頼りに、私たちは生き続けられるに違いありません。

夫は、企業戦士と呼ばれた時代の真っ只中を、世界中を飛び回りの働き抜け、人生後半は病との戦いでした。家族の会話等乏しい中、

夫は外、私は家を守ると分業化していた時代でした。夫には、聞き忘れましたが、私は良きパートナーだったのだろうか、私で本当に良かったのだろうか、頑張り過ぎで体調を崩してしまっただけでは。最後まで、静かに、家で力尽き、眠るように命を全う出来たのだから感謝でしかありません。

12才年上だった兄は、末っ子の私にとって、父の役目を果たしてくる存在でした。ある時、私にこんなことを言いました。「医者としての人生、これで良かったのかなあ」と。「十分だったわよ」と生意気にも言った覚えがあります。あの言葉には、家族にしか分からない、いろいろな意味が込められていた気がします。今さらながら、存在の大きさに喪失感を覚えると同時に、命を預けてくださった神様に感謝です。どんな時も、救いの手が差し伸べられ、今は次の言葉を胸にとどめ、歩んでいこうと思っています。

「明日、死ぬかのように生き、永遠に生きるかのように学べ」

マハトマ ガンジー

会いたい人について

牧内 歩

この原稿を書くにあたり、今会いたい人を考えてみても誰一人として思い当たりません。確かにコロナウイルスの影響で会えていない人はいます。が、ウチの祖母のように、年齢的に何年も会えていない人がいる上にこの時期が重なり、会いたいと思いつても会えないのとは違い、僕は会えていないと言ってもまだ半年です。歩いて会える距離に仲の良い友達はいますし、幸いにも高校の時仲良かった友達も近場に住んでいる人が多いので、緊急事態宣言の解除後に簡単に会うことができました。連合長老会主催の修養会のメンバーとは、コロナウイルスがあるうがなかるうがお互い簡単に行き来できる距離ではないので、今までと同様に頻繁に電話で近況報告をし合っています。春から広島と東京で離れて暮らすようになった母とは、逆にちょうど良い距離感

に落ち着いています。大学生活がオンラインで始まり、テレビ電話で顔を合わせている同じ学科の人たちは未だ顔と名前すら一致していないので、会おうともなりません。教会員の皆さんとは、僕が礼拝に出席できているおかげで会えていない方にも親近感があり、懐かしい感じがしません。他にも今会えない人はいますがSNSで連絡を取り合っています。つまり、会いたい人と会えている、お互い近況を把握しているので寂しさがないということです。

冷たい言い方になりますが、逆にこれらのことを思うと、19年間の友達付き合いをこの期間で清算できたようにも思えます。この半年で一切連絡を取らなくなってしまう友達もいますが、逆に友情が深まった友人も多くいます。友達がいないと生きていけない僕はそんなみんなが大好きです、自分には良い友達にたくさん恵まれたと今までより一層感じています。このような時期にあっても大切なことに気づかせてもらえました。素晴らしい友達を与えてくださった神様に感謝しています。

高知だより

高知教会に赴任してすぐに新型コロナウイルスの影響で、1ヶ月間の礼拝自粛を余儀なくされました。予定されていた四国教区の准允式も伝道師就任式も規模を縮小して行いました。私にとって伝道者人生の1年目が本当に忘れられない歩みとなりました。高知県内の感染者数は少ないため、7月より通常通りの礼拝に戻りつつあります。8月に2週間の夏期休暇を頂いていたので、妻と2人で経堂北教会に行き、皆様とお会いできると思っていました。ですが、都内での感染拡大を受け、今年は断念しました。

改めて高知教会に赴任して思うのは、高知の人々は性格が明るい方が多く、私たち夫婦を温かく迎えてくださり、いつも支えてくださっているということです。四国は2人にとって未踏の地であり、生活するだけでも一苦労でしたが、主任の黒田若雄牧師をはじめ、信徒の方々に色々と教えてもらいながら日々過ごしています。高知

にはたくさんさんの観光資源があり、太平洋の素晴らしい海、四万十川のような綺麗な川があり、実際に目の当たりにすると自然の美しさに感動を覚えます。こんな素敵な場所が日本にあったのだと気づかれました。

四国教区の教会は東京と比べると小さな群れの教会が多いです。実際、黒田先生も高知教会以外に2つの教会を代務しています。私も1ヶ月に1度、他教会に説教奉仕に行っています。地方伝道の現実を覚えながらも、どの教会でも熱心に礼拝を捧げておられる信徒の方々の姿を見て、私は毎回励まされます。経堂北教会の歩みが守られますよう、高知からお祈りしています。
(松浦子基)

大きな環境の変化に加えて、色々な制限のあるなかでの生活がはじまり余裕のない日々が続きましたが、毎日の暮らしの中で試行錯誤を重ねながら「まずは今日を生きる」ということに集中することに落ち着いています。私は和光大学の大学院2年生になりました。もともと今年度はリモートで

授業を受けるつもりでしたが、今年1年は全学生がほぼリモート授業になったため、私の特殊な状況も全く目立たなくなりました。

キリスト教幼児教育の歴史研究をベースに、近年の幼児教育における「対話的関係のあり方と共感性」についての研究を重ねています。また趣味と勉強を兼ねて、YouTubeやSNSによる情報発信、またイラストの受注製作を行っています。今私がしている2つのこと、「キリスト教幼児教育が培ってきたもの」とそこに見る人間観」についての研究と、現代、特に「コロナ禍における人と人との繋がり方」についての毎日の発見を夫に話しながら「では今、日本の教会はどうだろうか?」「これから何ができるだろう」とほんの少しだけ真面目に(?)考えたり話し合ったりする時間が楽しいです。日常生活でも「経堂北教会だったからこそするよね」「経堂北の○○さんだったら…」と夫婦では皆様の話題が絶えません。
私たち自身、まだ高知という土地をよくわかっていない状況なの

で、いつかお越しいただいく際にも、共に新鮮な気持ちを感じながらご案内することになると思います。ぜひお待ちしております。
夫婦で「東京にいったらやりたいことリスト」がどんどん増えています。経堂北教会の礼拝に出席することです。皆様にお会いできる日を心から楽しみにしています。
(松浦愛美)

説 教

『食卓の主』

列王記下4章42節～44節

マルコによる福音書6章30節～44節

狩野進之佑

主イエスのもとに集まってきた群衆の様子について、聖書は「飼い主のいない羊のよう」（34節）だと言っています。いざ実際にこの場面を想像しようとしてみると、わらわらと主イエスのところ

にやってきたこの群衆が、どんな様子だったのかをイメージすることは難しいのではないかと思います。この表現は人々の様子、目に見える様子を表してはいません。

人々の内面を抉り出している言葉です。彼らの内には羊飼いが居ない。羊飼いは羊を導いて、彼らに食べ物、飲み物を用意します。狼に襲われることがあれば羊のために戦いますし、一匹の羊さえ失わないように心を用います。「飼い主のいない羊のよう」なこの人々には、そういう飼い主がいらないのです。自分たちを正しく導いてくれる人、守ってくれる人、心を傾

けてくれる人が彼らにいない。そんな彼らの内面にある虚しさに、主イエスは目を向けられる。その有様に心を痛めて、深く憐れまれます。そして主イエスご自身が彼らの「飼い主」になろうとするのです。

そのことは主イエスがこの集まってきた人々のために行ったことからわかります。この物語の中で、主イエスは人々にとつての「羊飼い」としてふるまい続けます。はじめに人々を教えたこともその一つです。人々を正しい道に導くためです。神様を見失って生きていく人々を、もう一度正しい道へ、本当に豊かに生きるための道へ、主イエスは彼らを導いていこうとするのです。

そして、なんといつてもこの物語においては、彼らに食事を与えようとしています。時が過ぎ、誰もが

空腹を覚え始めるころ、弟子たちが主イエスにした提案とというのは、実に当然の提案です。「人々を解散させてください。そうすれば、自分で周りの里や村へ、何か食べる物を買に行くでしょう。」（36節）しかし、主イエスはその提案を退けたのです。羊飼いとして、羊に食べ物を与えることは当然のことだからです。主イエスは人々を——ちょうど羊飼いが羊たちに食べさせるように——「青草の上に座らせ」（39節）、彼らに食べ物を与えはじめます。

ここには主イエスの不思議な奇跡が書かれています。主イエスが天を仰ぎ、祈られる。それから人々にパンと魚を分けられると、それは何倍にも増えたというのです。これが起こったのかわからない。それこそ聖書にさえ、どうやって増えたのか書かれていない。確かなことは、人々が満腹したこと。そして、パンは実際何倍にも増えて、その食べ残しだけでも、12の籠を満たしたということ。想像を絶する出来事が、神によってなされます。そして、この想像を絶するような奇跡が、とても小さな、

目の前の人々の空腹を満たすというこのためになされたのです。

主の祈りの中で、私たちは「日用の糧を今日も与えたまえ」と祈ります。今の日本では、特別な事情がない限り、そうそう飢え死ぬということはないと思います。それでもなお、私たちはこう祈ります。食事を用意してくれるのは、そういう飢えを恐れなくてよい日本の豊かさではありません。神様が用意してくださると、信じるからです。食事をするといいことは、私たちにとつては、今日み言葉に聞いたような、奇跡の出来事ではないかと思うのです。目の前ではこぼこと食べ物が増えたりはしません。が、神様は私たちの飼い主として、食べ物や準備してくださいます。私たちに神様とともに生きる道を教え、命を捨てても惜しくないというほどに私たちを愛してくださる主イエスが、私たちの日々の食卓にもまた心を砕いてくださっている。食事のたびに、私たちはその奇跡に与っているのです。

伝道師の書き込み

特別外に出る必要がない、むしろ出ない方が良いという状況は、個人的にはありがたいことなのですが、こうして文章を書く時に限って言えばなかなか厄介に感じるものです。驚くほど何もない日々です。自粛のため何もできず、今年小学生たちが夏の絵日記の宿題にひと際悩まされていると聞きましたが、同じ気持ちです。今年の夏したと言えは、せい

牧師の書斎から



東京はGo Toキャンペーンから除外され、都知事の自粛要請もあり……というわけではありませんが、夏期休暇中に旅行に出かけなかったのは初めてです。CSキャンプも中止でした。

昔話になりますが、1年の中で夏ほど忙しい季節はありませんでした。CSの幼小1・2年夏期学校、小学科3〜6年夏期キャンプ、中学科夏期キャンプ、初穂会会館宿

ぜい召天者記念日に飾る額の整理と、CSだよりの寄稿程度です。そういうわけで誌面のためにも、例年とは様変わりした後者については、少々紹介したいと思います。

普段通りであれば、9月号にはCSキャンプの記事が載せられませんが、先月号の『栄光』でも触れましたように、今年は中止になりました。そこでいつもと違う試みとして、CSだよりをキャンプの日程をなぞるように拡張し、いつもキャンプを行っている8月中旬にCSの生徒の各家庭に送りまし

青年会ワークキャンプまたは修養会、これに西南支区のワークキャンプが加わりました。毎週、主日礼拝を挟んで出たり入ったりでした。年によってはキリスト教主義学校の修養会に出かけることもありました。水曜夜の祈祷会、長老会、ルデヤ会、会堂清掃もありました。教会も自分も若かったということでしょう。猛暑の8月を休むことにしたのは主任者となつてからです。

少し時間ができて、CDプレイヤールを修理に出しました。トレイ

た。最近は一ツ所に集まるのが難しく、多くの会議が書面開催ということになっています。それと同じく、と言うわけではありませんが、CSキャンプもいわば「書面開催」したという形になります。CS教師会の中で発案されたことです。私自身はこういう思いつきには乏しい人間ですので、よく考えたものだなあ、と感心させられます。しばらくの間は礼拝堂に上がる階段の途中に掲示しています。機会があれば、軽くでも目を通していただけたら幸いです。

が開かなくなり、1ヶ月間パソコンで我慢しました。20年以上前の機器なので3度目の修理です。往復3時間以上かけて車で持ち込み、また後日持ち帰りました。一応修理はできたのですが、保証はできないと言われました。今度動かなくなったら買い換えなければなりません。次はデータとネット対応の機器となるでしょう。

重い機器を狭いところに押し込んでいるため、動かすのが面倒で(今回も運び出すとき腰がギクツとなりました)、メンテナンス

困難な状況のもとにあつて、こういう新しいことができること。それは神様が必要な知恵を私たちに与えてくださっているというところが、現実には目に見える形にされていることかと思ひます。神の知恵に与る、というのはなんとも大それた表現ですけれども、そういう知恵がほんの些細なことにさえも行き届いている。私たちが現実には生かして導いている。それは困難にある私たちにとつて、とても力強いことだと改めて思わされるものです。(狩野進之佑)

をほとんど何もしていませんでした。この機会にと思い、ラインやコードを外して掃除し、繋ぎ直しました。それだけで機器との接触が良くなったのか、時折出る雑音も今のところ消えています。

教会の音響も時々接触不良を起こします。繋ぎ直したり、電源を入れ直したりすれば今のところ直ります。

コロナ禍で、人と人との、人との接触不良が起きていられるかも知れません。御言葉に聞き、祈り、点検する必要があります。(岸)

個人消息



掲示板



○教会バザー 中止します。

編集後記



- ▽9月号が何か寂しいと思ったのは、「はじける」子どもたちのキャンプの原稿がなかったから。これでは「絵日記」の題材にも困るはず…。9月からはCSや集会も始まります。礼拝同様、気をつけながら教会生活を送りましょう。(沢田)
- ▽「最近、世の中に『祝福』が足りてないなあ…みんなもうちょっと祝福しあおうよ」というツイートを見かけた。キリスト教関係の方ではないようだ。閉塞感が心を蝕むのをはねのけて、ほかの人の状況や気持ちを想い、敬意・感謝をあらわしていこうと思った。(原^典)
- ▽教会の階段で夫が転んでおでこを打ち、ご心配をおかけしました。幸い、軽傷ですみました。貧血か熱中症か原因はわかりませんが、皆様もお気をつけください。(酒井)
- ▽文句はいろいろあるけども、このご時世、自分でできる対策をして生きていくしか方法はなくて。それでも神様に頼ることを知っているだけでもホント救われると思う毎日です。(尾崎)

「栄 光」2020年9月号
 日本基督教団 経堂北教会
 〒156-0051 東京都世田谷区宮坂3-21-11
 電話：03-3428-5029 / FAX：03-3428-5038
 牧師：岸 俊彦 伝道師：狩野進之佑
 編集：栄光編集委員会
 Email：kyodon@nifty.com
 HP：http://kyodokita.life.coocan.jp

長老のファイル

コロナ禍で生活が様変わりしてから半年以上経ちました。追い打ちをかけるように猛暑が続いています。帰省も旅行等のリフレッシュも出来ず、疲れがたまっている方が多いのではないのでしょうか？私自身はリモートでの仕事や授業で、視力が落ちてしまいました。当教会では、咳エチケットや換気、距離を取った着席等の感染防止策をとりながら礼拝を守っています。

ます。礼拝のライブ配信も行い、遠方の方とも祈りを合わせることが出来るようになりました。7月には久しぶりに聖餐式を行いました。7月には久しぶりになりました。8月は中止となり、感染拡大のため8月は中止となりました。次にいつ行えるかは分かりません。しかし、休まずに礼拝を守れていることは主に与えられた大きな恵みであり、感謝せずにはいられません。9月6日には自由が丘教会の田中光牧師をお招きして振起日礼拝を行うことも大きな恵みです。

70年前に書かれたカミュの『ペスト』が再び注目されています。過ぎたといいますが、重症の方は増え医療体制が逼迫していると聞きます。感染対策に過敏になり自粛警察と化している人も見かけます。特効薬がないなか、不明確な国の政策や経済の悪化等の不安を感じつつ生活していると、自分のことばかり考えて他者への思いやりを忘れてしまいがちです。しかし、このような時こそ御言葉に耳を傾けてお互いに思いやりを持つことが大切だと感じます。

主人公の医師リウーは封鎖された町でペストと戦い、彼のことを偽善だと言う人へ「ペストと戦う唯一の方法は誠実さ。自分の職務を果たすことだ」と語ります。リウーのように出来なくても、私たちも与えられた職務を誠実に果たし、周囲の人々に寄り添い助け合っていきたいものです。残念ながら秋のバザーは中止となりますが、礼拝後に小規模な製作品販売を行う予定です。祈りつつ、出来ることをやってみましょう。(酒井由紀子)